

奄美大島マツノト遺跡出土の新生児人骨

A Newborn Skeleton from Matsunoto Site, Amami-Oshima

竹 中 正 巳

Masami Takenaka

Abstracts: One newborn skeleton was unearthed at Matsunoto site, Amami-Oshima, Kagoshima from 6th to 10th century A.D.. Metric raw data and associated information on the skeleton from Matsunoto site, are presented.

Keywords : Matsunoto site, Amami-oshima, newborn

キーワード：マツノト遺跡, 奄美大島, 新生児

1. はじめに

1991年6月、鹿児島県奄美大島の笠利町（現：奄美市）に所在するマツノト遺跡の発掘調査で人骨1体が出土した。マツノト遺跡は紀元後6世紀から10世紀にかけて営まれた遺跡で、第1文化層、白砂層、第2文化層からそれぞれ遺物が検出されている（鹿児島県笠利町教育委員会、2006）。第1文化層からは兼久式土器を主体に搬入土器や土製品、貝製品、鉄製品が、第1文化層下層から白砂層にかけてはヤコウガイが大量に出土している。第2文化層からは兼久式土器に先行すると考えられる沈線文土器などが出土している。出土した人骨は白砂層から出土した。この人骨について人類学的精査を行った結果を報告する。

2. 観察および計測の結果と考察

出土人骨は図1からわかるとおり、上半身の骨がよく遺存している。特に右側の保存がよい。頭蓋は下顎骨の正中縫合が癒合していない。また、遺存している椎骨が完全に完成しているものはない。前頭縫合は未癒合である。

歯は下顎左乳中切歯の歯冠が半分程度、下顎左乳側切歯の歯冠が1/3程度、また下顎左第一乳臼歯の歯冠の近心側が1/5程度完成している。下顎右乳側切歯の歯冠は1/3程度、下顎右第一乳臼歯の歯冠の近心側は1/5程度が完成している。上顎右乳中切歯の歯冠は2/5程度、上顎右乳側切歯の歯冠は1/3程度、上顎右第一乳臼歯の歯冠の頬側は1/8程度完成している。上顎左乳側切歯の歯冠は1/3程度、上顎左乳犬歯の歯冠は1/8程度が完成している。上述の骨の癒合状態、歯冠の形成状況から、出土した人骨は新生児骨と判定される。

また、主要体肢骨の計測値を表1に示す。右上腕骨の最大長60.8mm、右橈骨の最大長47.7mmであった。Akiyoshi (1976) の現代胎児骨の計測値と比較してみると、胎齢10ヶ月に相当する大きさとなる。



図1 マツノト遺跡出土新生児人骨（上：頭蓋 下：上半身）

表 1 マツノト遺跡出土新生児体肢骨の計測値(mm)および示数

		右	左
上腕骨	最大長	60.8	-
	中央最大径	5.2	-
	中央最小径	4.3	-
	骨体断面示数	82.7	-
橈骨	骨幹最大長	47.7	-
	中央横径	3.5	-
	中央矢状径	3.1	-
	中央断面示数	88.6	-
鎖骨	最大長	-	-
	中央上下径	-	3
	中央前後径	-	3.6
	中央断面示数	-	83.3

本人骨は、母体と考えられるような人骨片とともに遺存していたわけでもなく、単独での出土である。出土状況と歯冠の形成状況、骨格の大きさを考え合わせると、出生後間もない時期に死亡した新生児と考えられる。

引用文献

- 1) 鹿児島県笠利町教育委員会 (2006) マツノト遺跡. 笠利町文化財報告書, 第28集. 2006.
- 2) Akiyoshi, T. (1976) Studies on Fetal Bone Extremities and the Derivation of an Equation for Estimating Fetal Body Length. Acta Medica Nagasakiensia, 20: 15-28.

(2012年12月7日 受理)